心から感謝

報道部・堂下康一

…か?」。ふらっと20代、対馬振興局)…た。当時の支庁…中村法道氏。気さ…取材というより雑…たことが多かった。当…の勢いのまま取材先と…ることも多かったが、私…に対馬を離れる際、送別会…いてくれた時は素直にうれ…かった。

中村氏が12年前、知事選に初めて立候補した際、たまたま居酒屋で居合わせた若い県職員が「中村さんの下でなら働きやすい」と当選を願っていたのは印象的だった。

2年前、県庁担当となり、久々に再会した。「立場が人をつくる」と言うように、知事としての威厳が備わっているように感じた。さすがにふらっと知事…訪ねるわけにはいかない…縫って時間を…取ってくれた。報道機関の重…な役割は行政の監視とされているが、真正面に施策を進めようとする姿に触れ、後押ししたいとも思った。

だが懸案の人口減少は進むばかりで、長年の課題の石木ダム建設や新幹線全線フル規格化も打開の糸口がつかめず、県庁には停滞感が漂っていた。さらに新型コロナウイルス対策に追われる日々が続き、中村氏は疲れているように見えた。それでも周囲から「割に合わない」と思われるほど黙々と激務をこな…ていた。

3期12年続いた中村県政…よう幕を下ろす。県民の…支える県庁という大組…プに立った者にしか…苦悩があったこと…氏には心から感謝…て肩の荷を下…んでほしい…でした。